

水族館出てふしだらに歩く朱夏

野本 京

飯島晴子の出向指導句会で、高知県赤岡町の「絵金祭り」を一泊吟行。七月の夕べ、おどろおどろしい芝居絵屏風が商家の軒先に置かれ、百匆ろうそくの炎のゆらぎのなかを見て廻る。東京から奥坂まや、中山玄彦夫妻も同行。「桂浜水族館」が異常に暑かった。

昭和六十三年作